



花梅のりく



は集を授にまひ

大信乃松信にあら

たふよをたねる人信を

おの浦ながかこえ

よの浦ながかこえ

よの浦ながかこえ

よの浦ながかこえ

よの浦ながかこえ

よの浦ながかこえ

るが志ありて好むう何
こねと昔年抄本證一
久み交る能の内撰也
さしよめたくもさう一を討
可算信もさうさう撰に
あさうあはは家徳の
大しねさう一さうまか
あさうさうさうね部
を外の事もさうさうね
撰志しあさうさう一更

改るも夜さゆくことり
かごまれ彼も葉し信
夫教の白藜の光粒
たおし七寢の法教
いろとさうさうあさう
ほはれさう神也さう
てさう身れさう本を物
けつわ心乃也さうさう
染あさうさう風神を
よく作りたさうさう

ほ、ちれ頂は道をは
く乃代さこちままた
舞まやこち物清も
あら次里乃おの歌を
ちえ清るあおちか
しく只あそこの心
出さそおなほ心
志り十束の茶葉は
まこち心ほこち
ひこちこちこち

あこちこちこち
なだ神こちこち
方書こちこち
かこちこち
わのひこちこち
我なこちこち
—おあ次好ま
こちこちこち
乃解物こちこち
かこちこち
こち

伊勢誹諧彙句帳

春

菟栴やうろくおも神は去守氏
若水ノ年もめくるや車井土守種
住進繩張けりるを西め三行に常勝
冬とまきき牛小替々わるは年感沈
三年は矢狩やつきぬけは夜重沈
春音まの日本國やめり神 望一
何ものまききつゝは日足引利清
春をきき吉事始乃小み年元儀
とる此勢い見す勢家勢武清
試みや強心一筆けは去正長

恐すなるくすや試す神徳山光曉
一為す年よりまう多し聲望一
来りり年くくまきあり於易勝
多し物音やうふの不用ひは南宋
今日毎くひく徳を梅の影が望一
思てやた感くうきめのと試年正直
と地改踏る 一は七日是亦重院
氣森てを月影まは法外志計

元日卯日

年もとらつてと感なる卯枝が望一
一夜張やとわふらうと試年白笑
春を身まきくまよらうの香貞親

けきめを感く光也と此去無恙

元日雪

大雪を只若水乃りし如望一
若水張海つうらけめを心家同
わら水の流ひのくつる氷飛 弘和
門は去立もまうくつりて世世 利清
口うま川は試みあし 亦伊直
門神のーらゆまこよ去れ吉 氏吉
まもくよ急ぎまたり門乃松望一
彩まは清まもはま門の松益昌
去き門梅や都てれくま物光貞
丸木まくまうをうてう門の去正重

若水哉なるはきまはれり正友
海けりともやまよはるる道の
けり候を幸つよ子孫や花の元望一
富き内入りのまをたれや善者氏重
福れりともあつて来世の道
と春に月まうとま

とて裁て又まきあの中体とを
門下まきれりひちちらう松屋正重
毒れ花自ひや千里とれ身易勝
形梅やと下と度る花は望一

元日雪下り

雪未々初こころの成す木は望一

くまはれりともは持るを望一

とせのかられ唐や下のを望一
大と成るまき越日馬の家久

辛徳南より有と

百ころとてはひは梅は花望一
は連繩やあつるもは立神は孝晴
くて朝の年た美そ立まはる望一
降だうとて下照塔とめ望一
元日朝雨降りし

とてはつる音うまくと梅望一
ありと朝のこころは望一
とてはつる音うまくと梅望一

若水既裁く年ぬくひり定務
正月を鼻まへはく餅も望一
色たを松走り越る鬼が吉満
おれ者くらしもあふ急急あふ
人接りくよとて代乃去爰
試みずまの事あふ一は品
春をけくくくくくくくくくく
正月乃ついきら物る霞くれ伊豆
年徳の神のちぬや門乃去言房
風はや万葉となふ門乃松一入
常れくくくくくくくくくく
春をけくくくくくくくくくく

若菜

七種既摘や七午の仰れさ不案
若草既むむむむ踏うあさ守満
七種也のさし磨土は名の汁感度
栢樂寺すくく

七種寺すくくくく摘の松れさ及居
七種も生世人種れあふく周易
ひくくはくくくも摘けるあふ未祐
摘袖を百よ生くともあふ首女
何くくくくくくくくくく望一
名のくくくくくくくくくく志計
七種既くくくく拍子れ給ふ光貞

七條や六日白馬れさの相望一
摘ませそ来くへ人なほ長壽
摘み来く世を道致すれ終子同

六日節分

いふ言もくらくれすまが正重
下前へ鹿とあすれ松のさ道的
行約れ引と母るあふ常好
乙女子うつく志よちや路悟吉真
引く又引さひとちなる根芥か老有
摘むけきせわおのほは同
つとあす候や波のこは友重
引りりいん然すつと信のさ一勝

摘みや世を道致すれ終子同
善根取極くや生る佛乃存ま景
おく露や見え久白蒙佛のさ一入
汎このすなや神よま向格同
をけよもそ音をわぬ終るり吉治
ありす物好さうくはまあは祐海

子日

やせ起よ雷に縁のひは松松慶
松と々削り系都之縁のひは志心
君うはまも無き子日松松望一
縁のひして大木まをれ松系加往
産さ(産)引まらう縁の日(日)生

寺よりらふのしる

冬うりんふたは身備梅利清
花うら重考その傷者梅望一
逢くひく位さうれ備者梅正重
香はほまれけりて裁く備者梅利清
ゆりまう花の位や備者梅正俊
あく考成おまをけ備者梅正照
ゆり子者うまうかめ備者梅祐海
つふふれ種やひらけ花れ兄不案
梅あると名ひいき登と花の兄宙沢

娘中もろくろ人の家まで

唯書の上并りん人花れ兄と親

才とかなと召遠に花乃兄文重
庄論おけく務本はけ花梵
あくは本信ものめ花れ兄望一
さく花の兄をけあるまお同
けきゆるま其長子んり花れ兄平重
さくもく梅れ本きもち空物観雪
本をちけく白梅花の床津真
花咲ぬ梅れ本をもち毎作感一
上作を梅のよまおさくはれ
風さうま毒の本まよまか益光
系れをまけはひらる梅れ本望光是
人をまけくもいらく梅の本望

梅と窓をくもくする朝の正利
梅もかき歌うくか自ひか同
梅解や安成思負松花風定勝
梅の花うくくさるやわらわ 弘明
あふかよ自ひ二木花極毒感成
くくさるのあふや実も有感成時
ひする行自昇お梅花自う那長次

白米海侯くく

朝陽さよくそ自梅花感か望一
霞彩をゆけり度海花梅花武元
人々母乃遊者り

も回くや母海花梅花

ああれむくもけり朱望望一
笑かけく二度とく梅梅
一枝きやせしきなけ梅花能安
木れもさくく白梅花の庭夏
席毒も日本一花自ひこれ清寅
梅う香ハ多あもあさ自ひか光貞
之くこのれか能毒花けりか未春
能毒花くくろひする木末ハ富沢
は吾凡よろろ能毒れ自ひこれ真信
と云毒も風のちくろ自ひか利清
ふ思あさけり能毒の羽は未遠
くくさる花く能梅花木末正親

花毒はり来りまはる星安清
花毒まなしくおきてさきり松吉里
花毒や日中りまはる神意孝晴
花の木よ香そ花毒は風亦光慶
とらぎと梅は満るや夕毒正友
重風はあすや梅は笠とあ宗仁
さおろく毒や毒のむさ代衣同
候花やつふは毒のなほ徳盛院
毒梅はおろきやさる毒のぬ未祐
笠をくけぬしどう毒花弘院
ぬよさるかぐはぬまう梅は笠正友
ぬよる初開のぬ梅の徳也

花笠は之梅むく屋は井光貞
りりそ花さけく白く梅は花光長
雪は梅も白ひや梅は笠正友
冬もくもあくとまきく梅の笠吉隆
毒うえはらう花をまよまはぬ光貞内儀
吹風よあせうさなせよ梅は花孝晴
ぬよる風すすめよ梅の吉貞
毒うえの毒は日かき我まき正友
あの花乃咲やちこそ梅はあや則
をれつう梅はつひや笠は子自勝
かつ咲は只花毒は子うるぬ未祐
花毒を文武二乃れ文書不嘉時

桃毒はささぎのけり花のささぎ
きい道へ香紙やと梅は嵐は正親
桃毒やいらあふりわさぎと家の正俊
人毎に目をやと梅は感く此孝晴
桃毒の花さう文上星目打奇城
桃毒は白くや付る表は雪吉治
毒の香乃道引致する花は光
枝おさきて飛そとなひ梅は花宣彦
つましくさけや日みく一梅花保友
まうすく此梅は枝や神意に名
花多くて実形梅乃も意同
色は桃の香あてとや宿梅安房

霞

八重あふりや衣はくもと松林
遠らびますとたおとあ哉常孝
三國は成つきののちり守種
花はささぎのささぎと梅は感
こに細き風つむあふり牧事
佐保は織やあれも衣守種
やとあふりそと大空小空小同
こ梅はささぎとあふり守種
肩衣張さすといふ此あふり同
あふりそとあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり同

山娘の肩はききくろく雲が重加
山窓はあけり障子や雪使便一
大を張けるやあはちちり雪光
川波奇々如れあや一文字未永
聲せぬ風とさくあか孝晴
天の川細引海りすあか光廣
東海も南ふの如くあか田説
春用よつてよめくあか経農
雪よ立人乃目よき山雪のれあか
引海に雲や風乃力す一政昭
あかきく山り有ばく霞が空
こと如とさくぬえや如霞弘尚

春雪

あかあか雪を楳の餅哉守仁
古くはあかあか雪のけ守種
消ぬるけあか神國う雪松守満
二月あかしてな消る雪松文性
消りあかの来迎う雪佛洞達

秋雪

あかあか雪けとろく雪松望一
本また水もやゆら雪佛真瀬
雪山我皆へ押入く雪日取長重
去つくいあかあか行乃雪文永
消る河の雪やあか風骨まら家徳

狼籍や毒之におもふ雪有寐
馬橋に訪さる雪や併花文永
雪れまやまゝよきれば此後
谷よある雪や日は此踏は私政
飛もも雪もかまはず日は文明
但盤門の外はいつく雪伸重成
各口によれをけりて雪味記
まゆのかく雪けりて松孝國
春の信は河をくまに積る雪雲志計
清める雪や木女の白まふ文定
まればやむ成りて雪栄好
清くせぬひも此生れ雪女光有

雪

おつる雪も此後やよむか 不案
雪れよひ起りて雪の物候の順前
そのれ雪情も此後とく未祐
くくひまけ梅れまの目貴感親
雪れ此後さへ耳乃は雪の始一
奇合するも雪ちくくろ利清
雪れまや春れ中ととま望一
とれつゝ雪も此後や雪れ亦同
雪の物もまゝ雪や花の心正利
くくひすれ雪も此後や雪れ正友
くまひの物も此後や雪れ正友

昔も柳は多かりしき鳥正徳
心と川とを名にた百寿新
嘗てその尺八や常世竹同
百子たる花よりくちの巻望一
名中へ名考つるも百寿隆長
嘗てはまきし向ふも小立か能安

表題

そとよりその内なるや能乃意なり正利
はし人研政らるる事能は志け志許

柳

春柳は眉うく眉はひさし守氏
春風は氣力ふけなる柳は常孝
指ききき人おるひく柳は宗仁
家残打ぬけく用は柳は志心
まのめうし露や柳のゆきも同
風之舞え人の氣晴る柳は望一
そのまはみく柳の楊枝は松院
かゝれくはるけりやう柳は真香
朝露を柳はみれ油は宗茂
志くくくくくくくくくく柳葉順
朝露は氣力けつる柳は志心

川風もせむや柳のうらみ
池水や柳のうらみのひたし
とらうらにんやとら柳未
時めくまなむぬわたり
喜風を柳のうらみ
佐保那のうらみや
蛇の歌に虹架よひけ
ま柳の糸をうら
花房のうらみや
春風をうらみや
水に柳をうら
うらうらのうら
く柳のうらみや
うらみや
ま柳のうら
うらみや
波のうらみや
浪乃あやめ
己うらみや
ま柳のうら
青柳のうら
年くま柳の
引く柳の
とらうらの

河うらのうらみや
く柳のうらみや
うらみや
ま柳のうら
うらみや
波のうらみや
浪乃あやめ
己うらみや
ま柳のうら
青柳のうら
年くま柳の
引く柳の
とらうらの

卷

春草

世を去りて下流の世やしも松林
春の草はこころをばや風の神守為
摘みたりは縁下けしこゆるなき文性
ききしぬるやとる世も草まじりて
花をよめば根をさうとや梅も盛常
みのるをよめぬ人をば清親
西海とよめ物もよめたり氏父
あやむ花や神のけり鞍定勝
とぬきし中もすむ江かたこれ小未吉
虫氣ある所もも地中も定勝

春水

とけぬる水もよめたり
春の氷をよめたり
とけぬる水やみ川の煙を一行一
水は乃息よりとる水は正吉
結みたりも春の水や清原景次
名を地へは水とけり清原清原
とけぬる水や二毛をかき結み
とる水もよめたり
なる水は乃息よりとる水は正吉
春の風や水乃ひま清原
結みたりも春の水は乃息より

大和なりまのりく

流せぬ水やつらき布留は河之次大坂

帰馬

馬房は文字もまぶさやまある感度

高きや馬を寄せしむりい光香

はかりもまきうり初まりの富沢

まき花乃やうまきうりはな望一

はまきりもまきうり海人きか長次

まき戸成とてまきれやゆが長留

帰たしうりまきあむ此方の真勝

うり此月とあらてもゆが乃平友

馬の文字まきや新海よりく一入

ゆまきれまきや月乃延生日守種

月影とおろろあるまゆが九卿

まきうりまきや露は月の良惟玉

まきうりや露乃海は帆望一

まきの戸く月まきこむ露か天随

花まきうりまきああらはま元儀

まきまきうりまきや月は丸ひ元忠

露まきうりまきや月乃荒色一入

まきまきうりまきああらはまの光有

まきまきうりまきああらはまの光有

まき

二月廿九日
まきのひらひひ葉がまれの光暁
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく

本日

まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく

白鳥や木ぬめのむの光れ往都
吹風やうきまのめの晴紫武富
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく

仲別

まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく
まきびらまきうく

まき

つれづれとやく最や之伸望一
爰然る人や伸の沛田乃貞務
是も又秋也政やりの務以正利
永くしつとまやち好と致し入

二月九日、小免ひ人乃退言

けさるやむ秋迄乃穂つき爰

燕

春のしるやゆらら枝たのめか代信
雨のつらつら枝たのめか代信
う甲さる枝たのめか代信
ひれはれさるやゆらら枝たのめか代信

若三立

若三立のまよとのゆやれさるこ水心
くさるゆきまのゆやれさるこ南栄
くさるの花や令れ目費ホカ六吉
くさる枝のまよとのゆやれさるこ長次
くさるゆきまのゆやれさるこ文永
若三立のこま油やまのぬホカ内
くさるゆきまのゆやれさるこ望一
若三立のまよとのゆやれさるこ胡蝶ハ孝願
若三立の目費り蝶れつらこ便城

名布

名布しにほよ未のよたる名布未好
海中の道孔のまききる名布か光貞

喜如

喜如き人の弱もてか人喜如良傳
喜乃地まていそく後ましく均望一
摘あも地まやんめつくし真莫
名丸や地へまり地道成る元正後

菊

一口りくりにいし鬼はきま未正
おおれ下を地獄の鬼あは清親
もてるふじのふのふ鬼はは正友
地系成やちかたり鬼はは田城
あ人ふしはまははは鬼あ正久
鬼あきし地まふつろ下標正利
はは推の地成のまき鬼あはは高

松あり縁

奇縁やめ松おまをれまたり守種
まきしりろろや小松のせいそ家時

松風をよみ緑子れとよまふ富沢
美ことりりあつきとやわ松弟景以
相を老て二度見よる緑松政
唯まぬらふより年の名録光長
ことりりみ成れとてころや姫小常利
千年成りとも松乃若みより家廣
ことり子よあやと唐や若松九雲
みどりまはけころちすれまの長昌

まき霰

時をぬまはれにまきあめれとまき

花

待たれぬよめよまての先守但
花さけとささくあする面声祐傳
面ことれ花とくわふれ山流子
つら〜〜〜花れふさき慶友
とまきけも咲り〜〜〜まかり光香
候ぬやとあむままとのまき同
心姫のなれぬけりり花もれし惠傳
ひり〜〜〜花とて人花まつ不光香
花成行人をやはらぐ花の露富山
花と〜〜〜花のまのまの心はま露
花さけとほらや〜〜〜まきれる利清

さうさう然行るるはなうふそそ所望一
朽木もまたあまの身これれ七俊
ぬ足れとやきとく花乃原川廣直
花の色よりこのあへきれぬ 未吉
以風はあろ然とほる花軍 同
花の根よりせなる色香は吉満
ときめき一花もや風より坂未吉
花は成るる言おと念は陰は同
目と鼻と心や花より三乃石^真勝
おて根はゆるき花は念は可勝
めあききそとらふやんの花成吉満
風をぬき道はせぬ花は身勝
根う又木末へこそ花の風後度
花を赤人の心せよりきり同
おろもある時や花盛定勝
花を八比翼は道の花は四説

あけの音より

此丘は丘尼姥も高くと守農
花よりも鼻よりあたる匂は守武
はまりのえとけくや目や花自成
きしてとくぬく花は目の葉守満
花乃木上雲のひけりかたが同
山は腰ひつりきとんと花より真竟

花の枝はめくりこころは小蝶小守種

梅求善

梅樂に梅さうな花の巻は一徹
露むおやすつかなう花の良衆仁
面よめまきく物なめくや花の私厚
咲たりと白ひと花は早供望一
塞翁もさうし靴をうへ花の同
咲花の日おわひた年や去去未茂
牛乳纏も香たひくもや花車利清

懐舊

折枝やこまきく夜心はし利清
花空もはやれ香もくまが之後

花守もど月とやてき味方保友
面乃おや花待はれまきあひ元是房
咲花よ木おら波さるる嵐が同
花そちりひひりて帰るこ流が香
さくく花乃梢をのく井葉宗
風や乞百病乃も喜れ花同
お花はれと捨るも思ふ何厚同
さきり流しひくも花乃笑ふ後真
時改め花は胡蝶乃金守宗香を

光香述善

花盛空一そいよさ川の光
時も時おもれきく花の余政昭

抱えぬ花乃きまやを聲政昭
とど人て心うりり花盛弘政
吹風やさめくまはるけぬ空
多と香れいつしりくのそけ延伴
ひりけりて言聲これ感か長昌
守人そ別花乃さきぬる一
物ひそけ人ともめ花乃枝光彦
りとれあさくもさうかなる梅雲
神あ花り

一粒も五葉のみらよ花は終正友
つて度もくま人物や花の能易勝
魂乃ぬけりゆる花は水

腹中こひやこめゆる花心未来
そのつら花欠の幕や去雲重行
つたて花やそりむよぬ蝶延揚
くや見りるりくは花車同
好車門あく白や花の看正利
一花を看ぬもつむや花の用又
きあひのねやささう花のま弘加
とく人と一花とならふ法が經安
思ひうちにあうあう花の魚同
たまさうまあは花のけり同
咲か待二度の思ひは花志計
地すう花つてんぬ花鳥伎次

のこいぬうそれのちなる為麗陰長
 咲つけけけけ若本此花乃友良政
 花くこまのみくも賦はをれ轉望一
 不こうあやふひもれう花山袖貞清
 見くもくもけめお花の色好弘政
 海もきそてつうう若き花の貞長昌
 花或熱くれか井や雪は常氏将
 一技そ千と重よくし花或武直
 山口うさくそ詞はあゆ一 未徳
 まるやめくまは本此花の色正重
 花房びらちきだうう山梨水望一
 春風といひうそむけ花の正俊
 花ぬきけいまもくやもも扇袋連一
 花乃香ひかきう一やとせ神海山正友
 氷日とりやこれか井の花見岡城
 山乃原きゆらうや花は軽う重次
 又ととぬくそ一花いこ那孝晴
 きりこのけくくあつて花の枝岡城
 まふ乃花びやひわることひる望一
 のちう人も根さうりきり花の長昌
 昔提仙うきく
 お花政南無は孫池仙と又武守氏
 花ゆへうけうとけう異名小守種
 花月而一病乃けきこれ宣廣

落月をみるも花を酔ふも良傳
あゝぬ花乃ふたし春は虚空性
ちまえ又人もちり花をよみ未祐
花乃就まうたるふのら海は景
風吹くまの強もこの花は孔重冬
花は風うたふまわらふは煙長重
おの香はけりく吹ゆる風は盛常
お花をを波濤地のあこ光暁
花びるまきこあすも好親望一
木未吹りくや春はまけぬき伊宣
こゝなり春とけくあーや花心感長
風は花を地もおおぬ白ひ哉近安
花は寸風やりのあぬ鬼は心正地
あゝくも風や吹ぬ花は定襲
そのつ木は耳もは花の然感常
是くも寸香入庵花の風正利
親れ肩はひくも花の山田説
あゝ半し子も走や花は夕嵐氏清
白雲や耳とくくく花盛正友
お花を花の一樹乃宿りか長次

梅

牛もく車くくや花は守通
次日も車くく乃花は守但
又とら車くくは梅は自昌

凡袋のぬいともよ糸梅内

杉人女事うねりそき糸梅西威

あけや虎むすめ糸梅孝晴

ゆりくし心うねり糸梅吉久

おとくんとむかひ糸梅重次

ちりて花根さうこ糸梅ぬ一

風もまれ空なまん糸梅利光

かさ出まて糸梅物なさう不宗

花下り糸梅ゆ糸梅糸梅栄仁

えん人致踏白糸梅や糸梅文性

一枝しく糸梅心やいぬさう度我

ほおや糸梅糸梅糸梅糸梅富沢

花越り糸梅人糸梅糸梅大梅垣一

香き袖うけ糸梅糸梅糸梅利清

そと糸梅打人糸梅糸梅糸梅弘澄

家伝糸梅引糸梅糸梅糸梅英次

そと糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅光長

糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅能政

糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅泰忠

糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅正友

糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅宗哲

糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅弘去

糸車糸梅糸梅糸梅糸梅糸梅不宗

花乃兄弟糸梅糸梅糸梅糸梅同

何とくうなるふ日何とくは梅政胤
山那乃こころと梅を梅盛澄
まふ香ふ世のあつた梅未枯
未乃又ぬ物なれや梅重澄
花乃梅もはき果ぬつた梅盛親
まふり香ふよふあつたつ清親
待ものと思つてやうと梅同
りまこれ志まひつた梅孝晴
梅程りあつたつ梅吉久
刻あつたつ梅定勝

梅翹

何れつたつ梅正勝
こきまふ梅柳よ梅翹正俊
秋やきと名あつたつ梅翹静壽
何と斗あつたつ梅正知

桃

名と何あつたつ梅正知
醉ふやうと梅乃酒望一
もく鹿しひつたつ梅盛利清
むすつたつ梅正知
かこつたつ梅正知
何と梅未もつたつ梅正知

あつと見えぬ花子度も花長昌
おふりも若くや推乃衣の性一
一時乃采花やと所を推柄利忠
もくはう入三つふれ心も花政昭
呼へんよ七八九十も花正香

蝶

草村のあま胡蝶は孫は宗仁
去れ地をこころの春は望一
蝶より猶心もあく福あり小同
まや蝶はをき入花は元後
花よりま枕するこそ花長
りく海も若然と羽乃こそ長久
花は舞ふ舞舞舞胡蝶小定勝
花はてあまの蝶や花乃舞弘長
と花乃花はあまの胡蝶小田説
あまの草花は花は蝶つ云久重
り乃くこもりの蝶や舞舞利忠

梨花

あつれり梅くは花は守氏
何の花をひともを花は不案
花之種を余念しめ花は萬鏡
お又乃心や花は花まり松澄
何のこころは花望一

まき草

ひやきぬきくまのくむけいふ不案
片のくむそ地乃まらぬ地忠吉
新出れ草や難読乃まの延良

蛙

花を根よめるもよの奇袋不案
軍よやまうせそ何ま蛙宗仁
まらりやあつれま何そ文性
水鏡えくやあつれくし蛙富沢
前代をやむる蛙乃いくま未滿
軍陽れ血りて流りてや未富沢

すくまの船ぬやうられ奇心茂一
なれ今く大海を知つからぶ政
扱りなるそ軍や川りる盛城
春此回よなるそられま奇光長
蛙子れくふゆるあるむ池の水道的
みなりがまよやあつれあつ蛙孝晴
後中かまといれぬうられ奇袋吉實
酒水や何あつ候もれも蛙光長
奇よむや何あつ候く何ん蛙保友

桂

白くればはまは花乃ま枝か真加

花乃名もその本立に椿れ式元
花も火とどむに椿乃油れ宛
白むう何う椿乃物津やし家久
候ぬまを石りかりうむつ受正友
うはまみそぬ花うむつ受満貞
咲てういおう満干れむつ受孝晴
冬よきハめるう椿乃花何や光慶
まうせめき高宿そ花力去椿宝聚
ひくよりとるや眼乃玉椿正利
候花や何うりわやく玉椿文惟

永日

春乃日も少一のひそりうひ自行
のひのりおひあるまの日は常孝
海山びましくなるま日は守満
永日三日よなせうひる縁が威澄
うらうひまゆりく

身もまにゆりとりう日は利清
てうとまどつくがなま日は望一
ま乃日はたらく人おもなるが如き
あう日乃ときしとくむも一はりの俊慶
永日まじと目にはらまぬ者相同

雉子

すしーらまあひびふ嬌夢の雉子利清
まじれ年の母こくまはくす望一

書成といふれ後世の維子宗茂
古畑成りや維子宗茂弘長
人乃香成之みつき之維子宗友

雲雀

鳴りも統く古よりるる雀常弘
とひききくは是成りしれ公朝未春
やあより啼音はあひひとりか光重

草

丁みまのふりけまはしく真行
摘きしと候やけ柳のかすむ宗仁
朝あのかたも葉は不まき弘隆
摘て又もつやこはは不草長昌

茶草

すれ摘と草つて茶つみれ晨夜
葉の中へ花くはしくむ茶草宗仁
摘とくしとあふ成はたる草如心
摘てとる茶草をまは成はるか弘高

蕨

焼ふよよりす前あるわひか感灰
わきあふく人よとあきるとひ同
ろりとすか常木とかなる蕨が年親
手とくも成れをみく打蕨が利清
さきひのふさはらえやあは玉同
けさうたなすはな成のせかき蕨吉隆

とてなぐ風のたひより殿徳光有

辛夷

つげくあまらこふ花風常考
ひげえん何やうあまらこ花清親
大まうたなりしこふ花軍能政
後も又ふ彩や咲乃ふ花政昭

友

帰^歸ふさもつきまふ花見が雄慶
友さふれかふ何さるさるひが廣慶
友は不の花の葉乃たふれが貞光
花さふれなまふ咲つて友れぬ未祐
友は^友のさけし^友まれや松家覺玄

松さふれはるや友乃さるひお忘
友さふれはるし^友や花の貞同

赤う之哉福つるや友れかふ光國
松さふれはる花さふれさる藤未長
若き^若あけ花もこもあはら^若貞親

友つる^友さる^友とる^友し^友松小松福生
松風吹ひさき^松も^松ら^松友の忠高

す^松もの^松さる^松ま^松つら^松う^松松松利信
花の浪さる^松も^松塩^松あ^松か^松ら^松金之
さ^松う^松け^松か^松し^松ま^松よ^松う^松松は^松ら^松り^松友感一
赤うさ^松か^松ら^松つ^松ら^松か^松友れ^松花^松の^松友^松孝^松晴
は^松ま^松よ^松ら^松か^松ら^松ま^松ま^松ら^松友^松ら^松つ^松る^松永^松長

こひつゝあふれとちまきつゝ娘は光是
ねつりそめくぬれ花をかく
まろくまふとそれ時友は花を
はまぬつゝ海り散つゝ安清

躑躅

蝶考もこひつゝりたり餅に不案
くまのつゝやちとまふは守為
まろく人や大てきちようは花経盛親
はつととらふつゝは併はと親
花をす考はつとめよもちつゝ智讚
火よはつゝつゝはつとつゝ

山姫は柔のよよさや併に先貞内交
花今つゝ人き竹乃はつゝは勝
石れ火をまふつゝはつゝは平重
あつゝや夜れつゝつゝはつゝは夏
若衣つゝつゝやするはつゝはつゝは
花れつゝつゝはつゝつゝはつゝはつゝは正徳
若よりつゝつゝはつゝつゝはつゝはつゝは未嘉
吹風はつゝつゝはつゝつゝはつゝはつゝはつゝは
柱ゆら念力とつゝはつゝはつゝはつゝはつゝは
かつゝつゝも井物は火つゝはつゝはつゝはつゝはつゝは
多つゝつゝつゝはつゝつゝはつゝはつゝはつゝはつゝは延徳

歎冬

山吹や梅の何れも花は不葉
吳花やうら山吹れは花の宗在
ちりり

山吹や梅の何れも花は不葉
山吹乃めり花は宗在

雑春

内宮まはりて山吹の
ろひ一人乃花

かたむき山吹の花は宗在

山吹乃めり花は宗在

何れも花は宗在

海了れは山吹の花は宗在

麦とては海も花は宗在

青海の花の宗在

花の宗在

花の宗在

花の宗在

花の宗在

花の宗在

花の宗在

伴規誹借發句帳

夏之部

信實似^もあやまり夏亦不案
わりよふ今^も頼^も祈^もけりや文^も衣^も望^も一
ぬふ^も之^も梅^もさ^もりや夏衣^も近^も周
わ^もけ^もる^もや^もい^もは^もて^もに^も衣^も之^も光^も有
言^も案^もて^も人^も之^も上^もなる^もや衣^も之^も惟^も春
言^もし^も一^も夏^もも^もつ^もし^もは^もは^もる^も小^も袖^も之^も次

夏木立

或^もあ^もや^もふ^もは^もは^もや^もふ^もの^も衣^も木^も立^も未^も長
西^も家^もに^も打^もて^もさ^もる^もや^も夏^も木^も立^も衣^も成^も

る然本此三序ふやする為新
山乃腰すくそおちる本立吉童
そおちる柄そふり夏本立

卯花

月より方々やとく卯花の法望一
卯花のそくくとなりき不或一
白雪とりくるく卯花けり放政

橘

腰ぬけしはつ立花乃句か富山
橘乃过月もる花も郎皇一
花候と名も立花乃古本か安陸
折紙よき立花乃さくもか未遠

郭公

房れむすめなるぬ郭公守長
聲よ者よ時多よりきやしく守道
口乃うちあるまもくや時多貞副
おきく六價なき〜郭公茶案
兄くやうそひすきれお〜時守敏
ぬもおまも〜よひ時多感炭
時多目しくまひし神徳山守種

部公也やねずり此より業り守種
あは耳よ二たふ何うをとむ宗仁
待して不とまきす人嫌も九珣
ぬま耳らひひ安らる時多宗仁
者候く口とらり身らり子歎望一
時多さくく徳もや地獄耳同

一聲や耳のらりこり部公利清

ては戸やあまよねのこ歎同

何れもよひたのりせよ子歎弘治

かよひ八何あむとあ〜子歎望一

名宗ちけ、大音何ひよ子歎重澄

名のせらや位らるぬの部公未加

名のまるやと下これ部公武清

一声を思をあつうわとまき文永

る乃和の鬼一口うかまき望一

塩少くくをくや物言時多家徳

もちとだけ声らぬ月の子歎清親

お病乃又子あも何部公長昌

かのぬき臆と物もの時多放政

あまきと安や耳も何子歎望一

おはま

時多に種也何の業らる日
海ぬよはけ考とせよ子歎盛城
やぬぬ耳と改ら乃子歎常利

さる耳よきりせ人物子規長昌
地獄耳よきを海にけ知正重
耳乃ひくはらふや時多正友
一發を耳中云々部云能安
るれお志るま流さう人子規益光
一声もきりしる耳や時多孝晴
がまお流し流まをらうら子規新利
年よりたふきれまは細往城
耳丁子ふすの何うきけ子規奴都
はつるましくやかしれ子規三糸
しれまのし天知地知の子規武清
時多とありつうつうし之も子辰長

さる耳よきりせ人物子規長昌
地獄耳よきを海にけ知正重
耳乃ひくはらふや時多正友
一發を耳中云々部云能安
るれお志るま流さう人子規益光
一声もきりしる耳や時多孝晴
がまお流し流まをらうら子規新利
年よりたふきれまは細往城
耳丁子ふすの何うきけ子規奴都
はつるましくやかしれ子規三糸
しれまのし天知地知の子規武清
時多とありつうつうし之も子辰長

庚申夜

きく耳よきりせ人物子規長昌
不老門のお乃月日子規武清
名のましくは元来部云定勝
耳本乃蚊の声あり部云光有
油くをまて百一口や部云未永
人泣くをば余も物や時多久重
一發や物よお意乃部云長圓

時鳥云并乃々也下流保友
時鳥かくやまかく繪師も重安日
帝乃耳云はる人時鳥日時次
東法よもさなる時鳥

牡丹

牡丹花はひらりくく花不葉
あは花日敷きく昔貞昌
久きもくくめ欲乃利清
うま子摘やかくんは花の友望一

芍薬

昔の明ちりく

花の名も時鳥云く武隆
久き米人志や友正次
気菜と葉名なるや友後貞
小力強いめやくやく花の枝之次友

牡丹

根なるも作り池水の牡丹洞達
厚陰の咲や竹少ゆきつは女性
打き下け花も友弘隆
水と浪是く友未昆
打之ぬくろ水友望一

五月雨付梅雨

五月雨ハ夜毎降りてあけ望一
五雨毎たつたことやれとち重雅
京五十月掃部あて

五月雨を川流さき報り望一
をまの氷はむやふふぬ梅はる不案
あたらぬあつたなりぬまは清寅

吉満寺より

そんころやゆへんくぬまあ元後
塩はけびふさ介もる梅の清親
己うまぬえもりのうそ梅の西益光

吉満

すなはち梅打ちみえつら守基
さねののち梅はあや坪樹慶茂

百合草

梅ゆりふと梅子れ野寺が松木
ゆりあふともはなはう花堂弘澄
名をたなるゆりこふそるよ花真真
目と見えぬ鬼ゆりた花や縁助近周
赤きれ名中鬼ゆり花の元俊
面あふむくまゆりきま吉満
鬼ゆりもさうり花はよこ正吉
来度もまうりさうり花はよこ正吉

大坂 梅次

系村よりすぬ赤鬼ゆり此花元俊

復草

追はけよ馬はむらさきうら新常孝
ふたのあき棘入り持のつち政胤
くもくなれえ物よ芳下守種
年よりとりと十八はくまが自嘉
友山は海みのとがる子種が慶我
麦秋乃よきふりすのふは易勝
大車まふつむりけせめ後引光侯
大車まくや氷より多の細なで宗政
何事し日し涼はむ遊や雲下孝國
面風より露のあまくくろて定勝か

此本もはらうきまは根さ引氏年
矣草を何りともけ此花重永長
常木を己の地づく後りれは宗
夏草は秋然とりて色うり記如
花見しは心しともたさむ政昭

着竹

小竹や持のふら子に画薬宗仁
唐竹乃子を日本乃持の文性
竹は子をひとあけぬや親心か九雪
竹はまのゆりもねま心れ文性
恒乃外かまきまの竹は捨利清

竹れ子乃如母の如のきやしく望一
親も子れまきろく竹乃乃やき重澄
とやまあせらく人何ぞを非真親
水つまよある竹の子やうほし真孝
我ましく世にま行れを非感一
おひまうりあきと病や竹のあ利清
ふ竹れ忘らら一た方廣り非宗仁
竹の子れ親より地ろそ給老貞
まいきよりよ入持竹乃子性正盛
竹れ子のあうう一ましく若け竹近周
竹れ子りけ短物ぬまか不忠
竹れ子よかやうとゆる荒非連一

竹子れちくえらくや見牙奴一
隣より根子や竹乃春ひ
竹子乃春春ひ親り子れあ正利
竹子れ親よりま終あう下と清一
竹子乃うまふおつ一は衣感常
竹子を皆と性れ生非れ
竹子れやまふ成とせ教は内儀老貝
人のま竹れ子あ一何川吉満
竹れ子乃こひ油の成す根り記勢
若竹乃ゆるあまむるけあり長昌
何若と子子まうう一まひ竹連一

水秀乃老らむとて死電 孝國
水より火をともしぬや御河正利
とある人も死けりきる字も未永
管火やまゝしる水の汚物忠次
とありし能く管れは無小定揚
夏は虫水よ死にすも管れ同
火ももくそ執りてくる管も望一
管火やまゝしる水の汚物忠次
結句火れ出るといふ管那宗仁
管火いと入るおに控るえりか光有
死なすけ馬見する管那俊慶
之能くしる管よらひ星組安
月を是管火をさす扇れ大坂重安
とる人此目取ひし管れ同
沈月より已る火のむ管れ大坂玄云
管火をさすしる水の汚物忠次
管火取やまゝしる水の汚物忠次
管火取やまゝしる水の汚物忠次

蝶

打く蝶や林乃鐘林はと老友清
蝶乃糸けりてふ蝶乃衣も長重
いつともやめく蝶乃衣忠次
己身取めけく蝶れ衣無空
同之時よく耳をきく蝶舞志計

水鶴

月何く子馬然るはくは万休
きくくくくくくくくくくくく
波うてりきききききき水鶴が利清
吾あハ電線中乃くあき忠告
月乃ねれ水鶴ハ傍乃化生望一
浪そくく水鶴之ききく浪利清
片光此竹やくあきき木同
いきききききききききききき
己う名よきき木ハ水鶴が同
家とわのらはしきき水鶴ハ吉房
あ川やいりてききききききき

氷室

ひむろ山友はくくく雪まろけ感澄
あつらん者きききき氷室清親

泉

あせききききききききききき
きくくくくくくくくくくくく

自取

夕暮れくくくききききききき
夕暮れきききききききききき
夕暮れ大園よりけきききき
夕暮れきききききききききき
夕暮れきききききききききき

いふらひりまきとる川 聖音の如望一
夕花ち感きの損ひたる何つきふ安房
夕立り笠うる松乃其陰節但笠
よりかみりたまはけぬ人ほ(あ)入
こぢりも夕立る乃之指子長田
夕立りうしうしう乃何あか友保友
夕立り小鹿うしやむる見友之次
すけの暮夕立りうしうかあ友小

未摘花

ふしやうふよ花をくま友宗信
油の中未摘花や舞袋弘厚

花に未摘きしとくやか友弘院
いねま友の目もことな友花に未遠

梔子

か入るとうめやいな花弘隆
いなき花物いぬ友名か家久
口な友よ友き友花友下友未好

舞入草

之の出すやう友花友中の舞入草田成
才竹小も友舞友ま友る友な友舞友利清
舞入友つ友花友の友娘友ゆ友り友舞友入友良政
舞入友の友ま友る友管友り友ま友舞友入友留都

寺下り交

夕暮れ蚊も強声れ此方より行都
蚊乃之れ移る又たこは夕外正友
蚊けらとけつりおそむる園守種
蚊乃口より声きききぬ夕外正友

梅子 付常夏

梅子や夏神の家はがごとく種難産
なごしこれ花すよ蝶や親心并種
梅子れあまめらちる種(此家常富
梅子れすここのころむ時来り未祐
梅子よ夕外より種ぬのころか望一

梅子子もききわきならは親毎行成
梅子を肩持きこもいかにの形先有
あつこのよせよ昔も友れ花むる盛一
梅子より種きこもよ月影の籠

石竹

三福人れ其筆くとし石竹亦自成
あま花よりあやえれ亦の背常産
咲花乃多しむさきき石竹亦慶我
子種より目れおく花や石竹利清
花をばもつりともな種石の亦忠尚
あらちちくこころとひる石竹弘澄

照了す目ひてあきら名も未正
性直する理致せきり此感文朝
所あき名名の如くその國茂
咲花此命くさきそ乃竹長昌
花散す凡や碑乃その竹慶誠
久め人やくそ竹花武孝晴

海棠

河のうたひるめそ海は忠次
なまねちみるをささき松厚
海はうまやゆくとみるめか言荷

夕魚

夕靄乃か残りこきうけらひて守是
夕魚はえまつると夜せ車牛一徹
お家そとく夕魚の杯は田成
夕魚や作らさくも花は岩正里
うらひのほえゆふなれと也定勝
夕魚をさきりさくも花の色正吉
ゆかりは花うまなれと也大倉司

瓜 付菰子

いうまなくさたうほまく瓜常孝
焼瓜れむすめ孫く小娘瓜清貞

てはありきとふぬづる馬乳尤雪
夕家よりしるるを玉子に望一
孝成ありきやちきり姫乳利清
乳を文人致むや書ける清水同
銘教向ちまや古成まゝ乳威威
姥乳はまゝ鶴つよきとて久明
原成者成しひははり木乳光慶
名中も似あきききやめや馬乳遊傳
塩少ちよと成やすむる馬乳忠房
くり社をく鶴成の馬乳可孫
いつるんまゝ花すもなすひ真親
年しすも若むや色れ白茄子 未重

蓮

さき移るもすを蓮花親政徒
おぬを池乃おぬ乃とす利清
夕海をむふちとて蓮花那望一

追善

意うつる入るあつるを家同
志直よひに種くわやとす利清
朝あをひききとあゝ蓮花望一
尻の子もいふは世の佛も同
根水は池より夜をく好す 未重
花乃まもく流付はちす未重
入るも人佛は尻何ちす望一

佛舍利や蓮乃上は夜の玉元患
他念有りくは蓮の餅は老有
八軸之世法蓮花はまきと空

扇

繪合の十二はあのみはあまは守武
二月八末はいろく此扇子は長鈍
空や扇を子あを満く里朝浄信
神風はまきくふも成園之那是孫
涼は心あめはまきく扇は同
ありくは風や扇はあかあまの玄心
ひくくは扇はまきく下其は家時

浄はまきくはまきく扇は層城
取は神はまきく又まきく扇は正利
破はまきくはまきく扇は保友
何はまきくは厚紙乃御田扇文正
松風よかりはまきく扇は与親
涼はまきく扇はまきく扇は嘉時
来は風はまきくはまきく扇は望一
月をまきくはまきく扇は利清
まきくはまきくは扇は氏吉
何はまきくはまきく扇は内侯
何はまきくはまきく扇は家時
涼はまきくはまきく扇は放鼓

し女子の舞は扇や中は月望一
風多きは乃骨より扇より吉長
扇をへくまもよ風袋吉次
山乃腰よりす月も又扇か安房

暑者日

暑き日よる人河松元龍山
暑き日冬乃二年の松南栄
夏は暑もぬもくは暑が易勝
やうめく才陰もなるの日は幸悦
光り明ちのん

暑き日を凡も請けは也光貞

八重雲も踏ぬく夏は日三か吉松
夜衣よりきこは日よりか清寅
行はるかえぬ夜は日よりか正利
身り行はるかえぬ夜は日よりか正利
てぬかぬけはるの夏は日三か弘長
夏は日乃暑き成るを也落衣^{大夜}之次

納涼

清水も流るる川乃津中も真光
風をわく雲は夜や丁子指の真香
白雲を白ひ袋うては風と親

清の志はくらく價やきまらるる
吾々の水菜をよめてはるは國賀

京三老と奥の

月海 何の障子紙や川望一
もあつては吾の是をよと水定清
松陰のたうく汗井せき長次
吾にせて是の五折は水乳弘長
水きのきく凍きほるは世本
海さの外より若ぬうちハハハ

雲の巻

ありははらくはらるる雲求心

須弥山や何の舟出る西云嶺前

山くそて是一ろなきやこれ春

京三老と奥の

此よりこそまきちりやさるる
世果みお林下は里り雲ぬき満元
と人乃海にけり雨そ乃峯光成

雑復

高ぬりそくもさあくすも柳の花未
きやしとく一名中似たりし小清親
入物を竹れまへや一よきは重雄
事も本もさくせう行く夏は貞元
京三老

是引乃心也ゆふ子紙字は玄望一
山乃まことぬきみの海に慶傳
狩蹄る人又このことをとりし未吉
風波給よま度地や友対^森之次

